

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>22<

教訓は生かせるか：

ハネルデイスカッション

「災害の教訓を生かす」
自助・共助・公助」

【杉尾】では続いて、
首藤市長、延岡での取
り組みを紹介くださ
い。

【首藤】今、国、県
のお立場からいろいろと
ご説明がありました。

この激特事業で道路の
かさ上げとか家屋の移
転とかがハード的に随
分進んでいったのが、
何より大きいその後の
対策になっているかな
と思います。

延岡市の中で特に被
害が大きかった岡富地
区では南北の新しい道
路ができています。延
岡西環状道路の一部で
すが、新しい橋梁きよ
うりょうも架かり、

整備というものが進ん
できました。

そういった中で、台
風14号のときにこのエ
リアで非常に大きな浸
水被害が起こりました
ので、その対策も併せ
て進めてきた部分があ
ります。

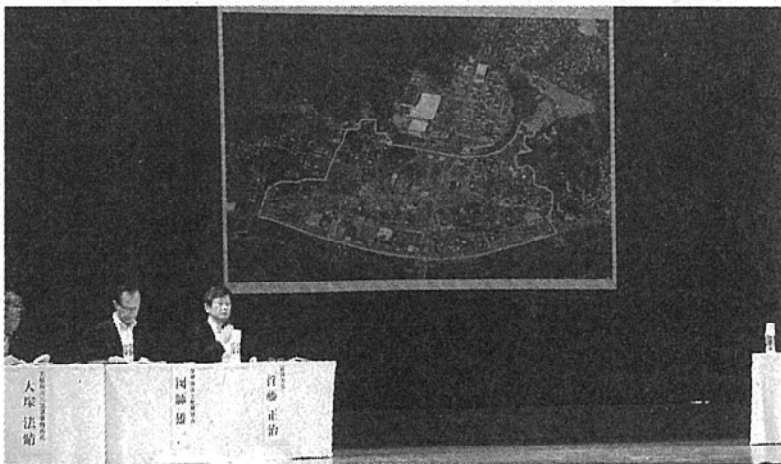
多々良地区には雨水
調整池があり、圧力管
で雨水を流すという形
になっています。岡富
地区については、宅地
のかさ上げなども進ん
でいますが、併せて、
このエリアの雨水
については自然流下管
で川に流していくこと
になっています。

古川地区については排
水ポンプ場があり、流
下管で五ヶ瀬川に流し
ていく形になっていま
す。その上流といいま
すか、山手の方の古川
・岡富地区北部は圧力
管で川に流していく。
こういうふうにハード
面では、いくつかのゾ
ーンに分けて雨水を排
水していく計画でいま
で来ています。

同時にソフト的な部
分を一言だけ申し上げ
ておきたいと思いま
す。ソフト事業という
ことでも、災害情報メ
ールなどのICT（情
報通信技術）も活用し
ながら進めてきていま
すし、自主防災組織の
結成も進められてきま
した。

それから、災害ボラ
ンティアネットワーク
といったものも結成さ
れたり、避難情報等の
一斉通報システムも導
入されてきたところで
す。その後、このボラ
ンティアネットワーク
が非常に大きな役割も
果たしてくれました。
次の年には竜巻災害
がありましたけれど
も、このときにボラン
ティアネットワークが

岡富古川地区と多々良地区の区画整理事業に
ついて説明する首藤市長（ハネルデイスカッ
ションより）



非常に有効に機能した
という後日談もありま
した。

【杉尾】ありがとござ
いました。ハード整
備が十分に進み、14号
台風と同じレベルの台
風がやってきても、今
は治水安全度が確保さ
れているということに
なるわけです。

コーディネーター
杉尾哲（宮崎大学名
誉教授）

パネリスト

首藤正治（延岡市長）

図師雄一（宮崎県県
土整備部長）

大塚法晴（元延岡河
川国道事務所長）

森川幹夫（九州地方
整備局河川部長）

猪狩信浩（NPO法
人宮崎県防災士ネッ
トワーク理事長）

福島宏一（元延岡市
消防団長）

亀長馨（元北方町川
水流区長）

岡富道路整備と浸水被害対策

ソフト対策メール、自主防
ボランティア
ネットワーク

防災・減災を考える
シンポジウムから――